

開校

新たなスタート

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	教職員	合計
武茂小	男	4	0	3	5	4	6	22	3	25
	女	3	5	3	2	4	8	25	7	32
	計	7	5	6	7	8	14	47	10	57
	学級数	1	1	1			1	4		
健武小	男	5	2	2	5	2	4	20	3	23
	女	3	6	2	7	4	2	24	6	30
	計	8	8	4	12	6	6	44	9	53
	学級数	1	1	1			1	4		
和見小	男	2	1	4	1	4	2	14	3	17
	女	4	3	4	2	2	1	16	7	23
	計	6	4	8	3	6	3	30	10	40
	学級数	1	1	1			1	4		



風船を放し、武茂小に別れ

3月9日、武茂小体育館で全校児童と保護者、地域住民ら約150人が出席し、閉校式が開催されました。

武茂小は昭和45年、旧松野小と富山小が統合して開校。長年の廃品回収やプルタブ800kgを集め、車イスを社会福祉協議会へ寄付するなどの福祉事業、あるいは体力づくり事業に力を入れるなど地域に根ざした教育を実践し、日本赤十字社などから、数々の表彰を受賞しました。

川崎和郎町長は「町として子どもたちの安全や通学について十分意を尽くしてまいりたい。同校が統合されても地域を愛する方々の団結心はゆるぎないものと信じています。これまで支えていただき、統合にあたってお骨折りいただいた関係者に感謝とお礼を申し上げます」とあいさつしました。

藤田悦子校長は「この学び舎で身に付いた力は、これから皆さんが歩いていく中で大きな支えになります。誇りをもって頑張ってください」とあいさつ。児童代表の相田光希さんは「武茂小で過ぎた数々の思い出を大切にしていきたい。そして、私たちの心は社会福祉協議会へ届けた車イスを通して人々に受け継がれます」などと話しました。

式典終了後、児童や保護者一人ひとりが同校へのメッセージを乗せた風船を校舎の屋上から一斉に飛ばして、母校に感謝し、別れを告げました。

3小学校統廃合の経過

旧馬頭町では、学校の望ましい環境整備における統廃合を検討しようと平成16年6月、「馬頭町立学校整備検討委員会」を設置しました。その中で、少子化による今後の小・中学校のあり方について調査、研究した結果、「複式学級の解消」が最も重要であるとの意見で一致し、武茂小・健武小・和見小を平成19年度で廃校とし、それぞれ馬頭小へ統合する計画を定めました。

130年以上の歴史に幕

3月末で閉校となる健武小と和見小は3月8日、閉校式が開催され、全校児童と保護者、地域住民らが出席し、思い出の学び舎に別れを告げました。健武小は132年、和見小は133年の歴史に幕をおろしました。

また、武茂小は3月9日、38年の歴史にピリオドを打つ閉校式が開催されました。健武小は明治9年開校で約5,000人、和見小は武茂学校和見分校として明治8年開校以来約2,000人、武茂小は昭和45年開校以来、約700人の卒業生を送り出しました。

これで当町は、先月馬頭東中が閉校し中学校が2校、小学校が8校となりました。

小学校3校が

武茂小、健武小、和見小が馬頭小へ統合 4月から



133年の伝統と歴史ある 和見小に感謝

133年の歴史を刻んできた和見小では3月8日、全校児童、保護者や地域住民ら約100人が出席し、閉校式が開催されました。

和見小は明治8年、広泉寺に武茂学校和見分校として開校後、大正6年に現在地に移転しました。平成13年に県健康推進学校優秀校表彰、平成17年に県警察本部長より交通安全功労団体表彰を受賞するなど素晴らしい実績を残してきました。

式典では川崎和郎町長のあいさつ後、飯塚牧子校長が「和見小では、少人数だからこそみんなが一つになれる瞬間がたくさんありました。児童の皆さんは和見小で学んだことを誇りとし、さらにたくましく未来に向かって大きく羽ばたいてください」とあいさつ。児童代表の小泉茂さんが「和見小の木造校舎は僕たちの自慢です。ここで学べたことに感謝します。歴史のある和見小の最後の卒業生になったことを誇りに思います。僕たちは和見小の校舎も思い出も忘れません。ありがとう、和見小学校」と話しました。

その後、音楽家岡倉ゆかりさんの演奏で全校児童が「ビリーブ」と校歌を合唱し、校庭にイチヨウやメタセコイヤの立つ学び舎に感謝し、別れを告げました。

132年の歴史を刻んだ 健武小に別れ

3月8日、132年の歴史と伝統を刻んできた健武小で閉校式が行われ、全校児童と保護者、地域住民ら約150人が出席しました。

健武小は明治9年、馬頭小学校の分校として開校。平成2年、学校安全優良校として文部大臣賞を受賞。また、同和教育研究指定校や人権教育研究校として、子どもたちの人権感覚と人間性を育てる教育を展開し、高い評価を受けてきました。さらに、常に地域の人々に愛され、学校と地域住民が一体となり、学校行事等を展開してきました。

式典では川崎和郎町長のあいさつ後、塚田正三校長が「児童の皆さんは、明るい未来に活躍される素晴らしい人材です。開校以来の在籍者およそ5,000人の1人としてふるさとを愛する心もち、世界に羽ばたき、健武っ子の自信と誇りをもって頑張ってください」とあいさつ。児童代表の郡司拓実さんは「健武小の木造校舎にはいい香りがあり、ぬくもりがありました。いつも校庭の桜の木が僕たちを包み込んでくれました。これから環境が大きく変わりますが、僕たちは大丈夫です。健武小で学んできたことを誇りにし、新しい学校でも頑張っていきます」と話しました。

式典後、出席者全員で児童が同校への思いを書いた紙と花の種を付けた風船を校庭で一斉に放し、学び舎へ別れを告げました。